

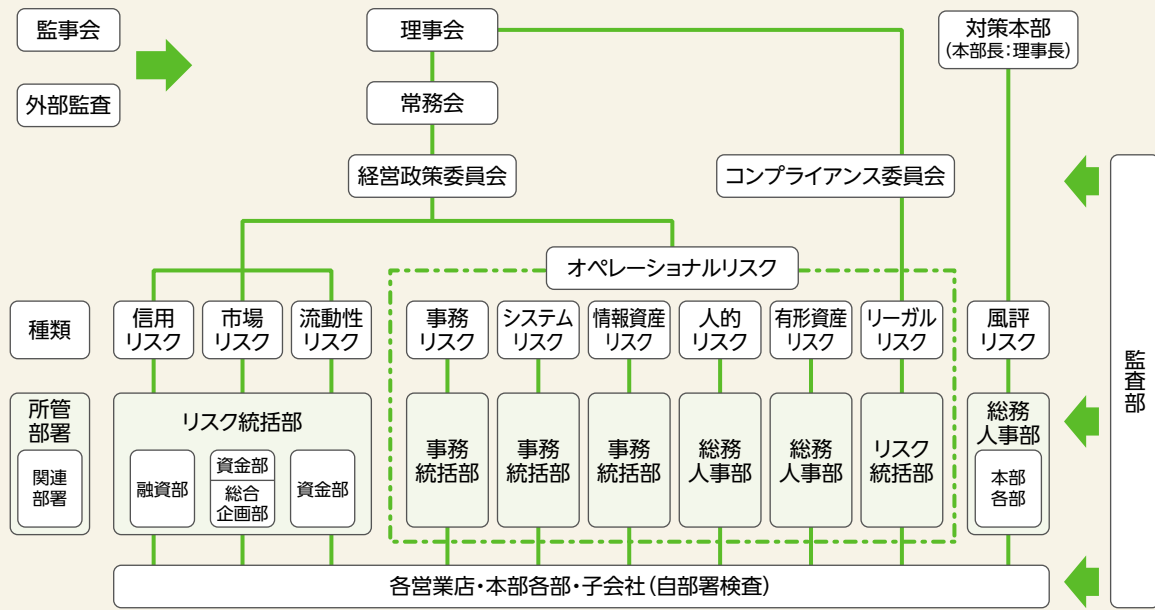
リスク管理態勢

リスク管理に関する基本的な考え方

当金庫が会員・利用者の皆さまからの信頼や期待に応えるためには、金庫の経営が健全であり続けなければなりません。経営の健全性を維持するためには、金庫を取り巻くリスクを適切に管理・コントロールすることが必要です。

こうした観点から当金庫では、リスク管理を経営の最重要課題の一つと位置付け、理事会により制定された「リスク管理方針」に基づき、各種リスク管理の規程や態勢を整備するとともに、**経営政策委員会**、**コンプライアンス委員会**、およびそれら委員会の下部組織である各部署、リスク統括部門を中心に金庫におけるリスクを組織横断的に把握・管理する態勢を構築し、適切な方法でリスク管理を実施しています。

■ リスク管理体制図



(2019年7月1日現在)

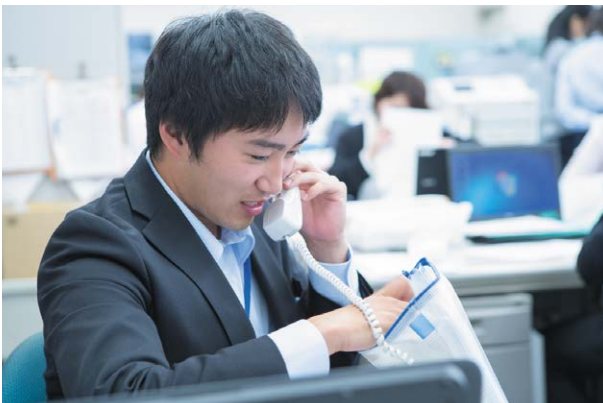
用語解説

【経営政策委員会】

当金庫では、ALMやオペレーショナルリスクに関する情報はもちろん、金庫経営に必要な幅広い情報が集約されたうえで、多面的な協議を行う場として、経営政策委員会を設置し、経営方針や事業計画の確認・進捗状況の点検等を行い、金庫の事業運営に関するPDCAサイクルを循環させています。

【ALM】

ALM(アセット・ライアビリティ・マネジメント)とは、リスクの適正化と収益の極大化を目指して、保有する資産および負債を総合的に管理し、コントロールすることをいいます。



統合的リスク管理の取組

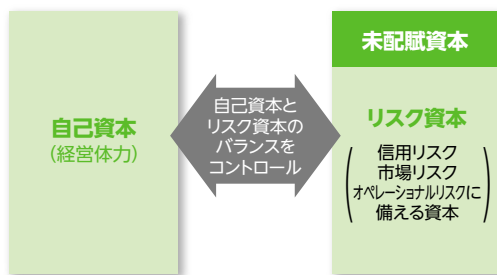
当金庫では、金庫が直面する各種リスクを個別の方法で質的または量的に評価したうえで金庫全体のリスクの程度を判断し、金庫の自己資本（経営体力）と対照することによって管理する「統合的リスク管理」を行っています。

具体的には、「信用リスク」、「市場リスク」、および「オペレーショナルリスク」について、各リスクの特性に応じた手法を用いてリスク量を計測・把握し、全体のリスク量が自己資本の範囲内に収まるように管理しています。また、各リスクに自己資本を割り当てることにより、全体のリスク量だけでなく、個別のリスク量についても管理しています。

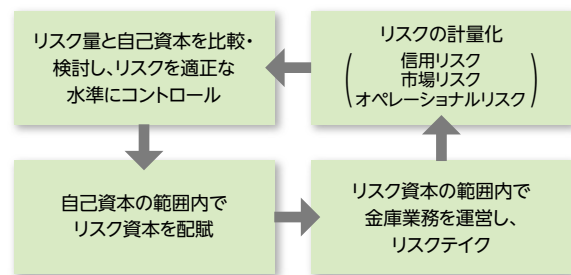
管理状況については定期的に経営政策委員会等において検証し、自己資本に対して過大なリスクをとることがないように努めています。

また、金融市場の急激な変化や不確実性に対応するため、一定のシナリオのもとで損失がどの程度想定されるか、定期的に**ストレステスト**を実施し、分析、検証をしています。

リスク資本配賦の考え方



統合的リスク管理の考え方



用語解説

【ストレステスト】

通常では発生しえない大きな変動（金利・株価等）が発生したと仮定するシミュレーション分析です。平常時のリスク量だけでなく、大きな変動が発生した際に顕在化する可能性があるリスクを把握するためにストレステストを実施しています。

各種リスク管理の取組

信用リスク管理

信用リスクとは、貸出先や保有している有価証券の発行体等の信用状態が悪化することにより、貸出金や有価証券の元本や利息の回収が困難になり、金庫が損失を被るリスクです。

- 当金庫では、貸出や保証等の一般的な与信取引に係る信用リスク対策として、個別審査体制の強化等、金庫全体の信用リスク管理態勢の強化に努めています。
- 個別貸出案件の審査体制については、営業推進部門の影響を受けない体制を整備した上で、迅速かつ適切な審査が実施されるよう、営業店の審査スタッフの育成に努めています。また、営業店の決裁権限を越える案件については、本部の審査専門スタッフが審査を行う等、厳正に対応しています。
- 定期的に自己責任に基づく厳正な資産査定を実施するとともに、査定結果に基づいた適切な償却額・引当額の算出を行う等、貸出資産等の健全性確保を図っています。
- 信用リスクの計量化については、高度化を徐々に進め、可能な限り保守的な手法でリスク量を計測するとともに、信用リスクに割り当てられたリスク資本（＝信用リスクリミット）の額とを比較することによって、リスク量が適切な範囲内となっているかをモニタリングしています。
- 信用リスクの定量的な管理はリスク統括部門が行い、経営政策委員会等に報告しています。

市場リスク管理

市場リスクとは、金利、有価証券等の価格、為替レート等の変動により、金庫が損失を被るリスクです。

- 市場リスクの計量化はVaRとよばれる手法で行っています。VaRで計算した預貸金や有価証券のリスク量と市場リスクに割り当てられたリスク資本(=市場リスクリミット)の額とを比較することによって、リスク量が適切な範囲内となっているかをモニタリングしています。
- 有価証券のVaRについては、日次で計測・管理しているほか、その精度を検証するため、月次でバックテストを実施しています。預貸金のVaRについては、月次で管理しています。
- 市場リスクの定量的な管理はリスク統括部門が行い、経営政策委員会等に報告しています。

用語解説

【VaR(バリュー・アット・リスク)】

過去の市場データを統計的に分析し、将来の一定期間において、一定の確率で発生しうる最大損失額を計測するリスク管理手法です。当金庫では、一定の期間を有価証券は30日、預貸金等バンキング勘定は250日、一定の確率は99%(信頼水準)を使用しています。

【バックテスト】

VaRの精度を検証するため、VaRと実際の時価の変化額を比較するリスク管理手法です。具体的には、保有期間1日のVaRと日々の時価の変化額を比較することによって、VaRが一定の確率99%(信頼水準)でリスク量を算出できているかの検証をしています。

流動性リスク管理

流動性リスクとは、予期しない資金の流出等により必要な資金が確保できなくなること、市場の混乱等により有価証券などの資産が通常の価格で取引ができなくなることにより、金庫が損失を被るリスクです。

- 当金庫では、「資金繰り要綱」を定め、資金繰りが逼迫した際においても迅速に対応できるよう、預金量に対して換金できる資産の額(時価があるものは時価ベース)を日次で把握し、モニタリングを行う等、万が一の際に迅速な対応ができるよう管理しています。
- 流動性リスクの管理は日次で資金繰り管理部門とリスク統括部門が行い、週次でその管理状況を各担当理事に報告するとともに、経営政策委員会等にも報告しています。
- 流動性リスクに備えて、国債等、流動性の高い有価証券を保有することを心がけるとともに、不測の事態に備え、「緊急時危機管理マニュアル」等の諸規程を定め、速やかに対処できる態勢としています。

風評リスク管理

風評リスクとは、事故やトラブル、マスコミによる報道等がきっかけとなって、金庫に対するネガティブな情報や認識が広まることにより、金庫経営に甚大なダメージを与え、金庫が損失を被るリスクです。

当金庫では、風評リスクが懸念される際は、対策本部を設置して状況を把握し、迅速かつ適切な対応を行うことにより、金庫経営に与えるダメージの極小化を図ることとしています。

緊急事態発生時の対応

当金庫では、「危機管理要綱」を定め、地震等の自然災害や大規模システム障害等、不測の緊急事態の発生に対して、統一的な危機管理対応ができる態勢を整備しています。

具体的には、お客さまの安全確保を最優先するため、緊急事態発生時における職員の行動基準と対応策を定めると同時に、人的・物的被害の軽減により、業務継続の確保に努めることとしています。



オペレーショナルリスク管理

オペレーショナルリスクとは、内部プロセス・人・システムが不適切であること、もしくは機能しないこと、または外生的事象に起因する損失により金庫が損失を被るリスクです。当金庫では、次の6つのリスクをオペレーショナルリスクに分類し、経営政策委員会、その下部組織である各部会、および各リスク所管部署が中心となって管理しています。

事務リスク

事務リスクとは、事務処理に伴うミス、事故、不正等により、金庫が損失を被るリスクです。

当金庫では、事務処理手順、事務処理権限、事務管理方法等の厳格化に努めるとともに、自店検査の実施、および内部監査部署による監査の実施等によりリスクの極小化を図っています。

また、事務事故や苦情・トラブル事例を役職員へ開示することにより再発防止を図るとともに、事務処理に関する研修等を充実させることにより、事務管理レベルを高め、事務リスク発生を防止を図っています。

システムリスク

システムリスクとは、オンラインシステム等のコンピュータシステムの停止、誤作動等、システムの不備等により、金庫が損失を被るリスクです。

当金庫では、トラブル発生に備えて緊急時対応計画（コンティンジェンシープラン）を定めるとともに、セキュリティポリシーに基づき、情報資産の適切な利用と保護のために安全対策を実施しています。

当金庫のオンラインシステムを運用・管理している労働金庫総合事務センターでは、十分な地震対策を施すとともに、仮に大規模災害等により機能が停止した場合であっても、金庫業務を継続できるようバックアップセンターを構築する等、万が一に備え、十分な安全対策を実施しています。

また、重要なデータファイルの破損、障害への対策として、データファイルを二重化するとともに、バックアップを取得し、重要システムに必要なソフトウェア、および重要なデータの隔地保管を行う等、データの安全確保に努めています。

高度化・巧妙化しているサイバー攻撃に対しても、攻撃発生に備えた対策の維持向上を図るとともに、被害の防止・低減と迅速な対応を行うためのCSIRT態勢を、ろうきん業態全体で構築しています。

情報資産リスク

情報資産リスクとは、個人情報等、金庫の保有する情報資産が外部に漏えいすること等により、金庫が損失を被るリスクです。

当金庫では、システムセキュリティの強化を図るとともに、「プライバシーポリシー」をはじめ、各種規程等を整備・遵守することによって、安全管理措置を施し、情報漏えいの防止を図り、金庫情報資産の厳格な管理を行っています。

人的リスク

人的リスクとは、職員の人事処遇や勤務管理上の問題、ならびに職場の安全衛生環境の問題に起因して、金庫が損失を被るリスクです。

当金庫では、雇用形態等に応じて適切に人事管理や人事運営を行い、教育・研修や職場指導等を充実させることにより、人的リスクの回避・削減を行っています。

有形資産リスク

有形資産リスクとは、地震・風水害等の自然災害や犯罪、または資産管理の瑕疵等の結果、有形資産が毀損し、金庫が損失を被るリスクです。

当金庫では、管理すべき動産・不動産の所在と現状を定期的に把握し、各資産の脆弱性を踏まえた防災・防犯対策等を実施することにより、有形資産リスクについての意識を高め、毀損リスク顕在化の抑制に努めています。

リーガルリスク

リーガルリスクとは、法令違反行為や、法律・会計制度・税制等の変更、各種契約にかかわる不備等により、金庫が損失を被るリスクです。

当金庫では、新規業務の開始時や各種契約の締結時には、担当部署によるリーガルチェックを行うとともに、顧問弁護士等の外部専門家と連携を強化し、迅速かつ的確な対応を図っています。